



会長	橋本八右衛門	青少年奉仕	正部家光彦
副会長	妻神 和憲	幹事	小田山紀暢
クラブ奉仕		会計	岡崎 孝文
会長エレクト	石橋 信雄	会場監督	鶴飼 寿栄
職業奉仕	山村 和芳	直前会長	紺野 広
社会奉仕	小井田和哉	副幹事	中村 稔彦
国際奉仕	深澤 隆	会計補佐	浜谷 英幸

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 宮下 悟 同副委員長 峯 正一
 同委員 松林 拓司 同委員 上村 奉樹

国際ロータリーのテーマ — 2024~25 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーのマジック

学ぼう、つながろう、そして一歩前へ！
～個人を磨くとクラブも輝く！再構築ロータリー～

国際ロータリー会長 ステファニーA.アーチック

八戸ロータリークラブ会長 橋本 八右衛門

12月 は 疾 病 予 防 と 治 療 月 間 です

第3336回例会 2024.12.11

会 長 要 件 橋本八右衛門 会長



先週も申し上げましたが、
今月は疾病予防と治療月間です。地区から月間リソースとして、それに関わることの連絡がきていると思いますし、

事務局からも会員の皆様に連絡をしていると思いますので、見られた方がいらっしゃいますでしょうか？

ロータリーの重点分野の1つで、すぐに頭に浮かぶのはポリオ撲滅運動かと思います。誰にとっても健康であることはなによりも大切なことです。その中で基本医療を受けられていない人が世界で4億人いるといわれています。

世界には多くの伝染病や病気があり、数年前新型コロナウイルスの感染が広がりましたが、あのような未知の病原菌などもあることはありますが稀で、世界では多くの病気がすでに研究解明されて、治療法が判明して、治療を受けたり薬を飲んだりすれば多くの病気が完治するものもたくさんあります。その中で紛争地域や発展途上国、恵まれない国々の

方たちの元だと治療場所がなかったり、経済的、時間的余裕がなかったり、環境がなく、病気に対する知識もしっかりと伝えられていない状況がいっぱいあります。それに対して各国のいろんなロータリークラブが関わって、いろいろ実態調査や教育、資金提供、実施協力などいろんなことが行われています。

そのページを拝見しますと、代表的と表現されているのはポリオです。これはポリオワクチン接種ということではなく、それに関わっているワーカーの方たちの情報の共有化促進のために携帯を供与したり、働いている方たちにより良い手助けできるようにパキスタンやナイジェリアなどで積極的に行われていることが紹介されています。

代表的な伝染病にはマラリアなどもあり、やはりアフリカなどに多いのでしょうかけれども、なかなか自覚がなく自然に広がっているような状況で、それぞれの実地調査をやり現地の人たちに病気の内容を伝えたり、治療の促進など大きく寄与しています。

調べれば調べるほど伝染病は自然に広がっていくのはわかっていくわけですが、それでも重症化は防ぐことができるという意味合い

での現在の活動になっているということです。早期発見ということです。まずはとっかかり。それでもなかなか無くすることにはならないでしょうが、そういうこともされています。

あとはアルツハイマーです。アルツハイマーもやはり病気に対する理解の向上、本人もそれを支える家族への支援というテーマで、サイトに飛ぶと活動グループに入りませんかという英文のページに飛んでいます。なので、そのようなことも疾病予防に重要な位置を占めているということでした。

きょうロータリーの友の紹介もありますが、今月号にもわれわれの身近なところでは地域医療について、メンタルヘルスについての記事が載っています。いろんな身近なところからも考えられますし、世界規模でもいろいろなことがあって、ロータリークラブの皆さんが疾病予防に関わっているということ、これを機会にぜひ勉強していただきたいと思えます。

やはり健康ということで自分の体をぜひ整えていただいて、この12月を過ごしていただき、よいお年越しができることを祈り、本日の会長要件とします。

表彰 米山功労者① 高谷勝義さん

幹事報告 小田山紀暢 幹事



○クリスマス家族会について
(12/13締切)

○フィリピンのバギオ基金について、これは国際的な奉仕になるのかと思いますが、ど

なたでも寄付できる基金です。事務局までお問合せください。

委員会報告

親睦・会場委員会

○ニコニコボックスの報告

- ・誕生祝 前原俊彦・寺下一之
今 彰夫さん



・奥様誕生祝

佐々木泰宏・熊谷清一
永澤 信さん

・結婚記念日

深澤 隆・岡崎孝文さん

橋本八右衛門さん 忘年会、山は越えたで
しょうか？お体を大切に。

小田山紀暢さん 赤澤さん、佐々木さん卓話
楽しみにしています。

上村奉樹さん 佐々木さん卓話楽しみにして
います。

鈴木隆広さん 少し早いですが今年もお世話
になりました。

道尻誠助さん 親睦会場委員会の方々の笑顔
に迎えられ幸せ倍増ですね。

夏川戸 斉・小井田和哉 ニコニコデー

上期委員会報告

社会奉仕委員会

小井田和哉委員長



副委員長は吉田誠夫さん、
委員は種市良意さん、熊谷清
一さんです。

目標として①地区補助金事業：八戸七夕飾り作製事業の準備と実施。年度開始前の6月に、ワークショップの見学に行き七夕飾り製作をどういう形で作るのかを観てきました。実際に7月に行われた七夕祭りでは実際に飾られているのを見てきました。橋本年度の最後の月の6月の時点で支援施設などの皆さんと一緒に七夕飾りを作製して、年度が替わりますが、7月に飾るという形で行いたいと考えています。

②八戸市競技カルタ大会小中学生大会の開催。これは10月末に工大二高の和田先生と1回目の打ち合わせを行いました。開催は来年2月2日(日)に南部会館です。今年は年々参加者が減ってきているということもあり、正部家光彦さんのお力をお借りして、11月26日に小学校校長会、12月2日に中学校校長会にそれぞれみんなで分担してPRに行き、その場で校長先生たちに対してカルタ大会はこう

いう感じだと、正部家さんのほうから冬休みに入る前に校長先生から子どもたちに話していただいて、興味をもってもらいたいというお願いをしてくれました。年明け1月15日締め切りで案内を出しています。それを受けて再度、今後の対応を考えていきたいと思っています。

③八戸市母子生活支援設備「小菊荘」への支援。今年度は何らかの支援をしようというところで始まり、その検討から入ると思いましたが、急遽、去年に引き続き夏祭りをやって欲しいという要望があり、7月27日にユートピアの場所をお借りして夏祭りを開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、子どもたちには喜んでもらえたかと思っています。

物価高の影響もあり、小菊荘に対して食糧支援をしようということです。12月16日に皆さんから募金で集め、クラブからも出したトータル50,000円のレトルトカレー、冷凍食品を買い出して小菊荘に届けてこようと思っています。

④ロータリーにおける社会奉仕の意義を考える。これについて橋本会長よりやるように言われていますが、これは全然できていないので、今後検討しようと思っています。

国際奉仕委員会

深澤 隆委員長



姉妹クラブ委員会、ロータリー財団委員会、米山委員会についてご説明します。

◎姉妹クラブ委員会：小林幹夫委員長の絶大なる努力、準備の元、無事に12人の会員と5人の家族で行ってきました。本当にひじょうに盛大な歓迎を受けましたので、来年度の受け入れ体制に向けて、次年度国際奉仕委員長に引き継ぎたいと思っています。

◎ロータリー財団委員会：11月13日のロータリー財団委員会担当例会で、寺下委員長に代わって中村副委員長からロータリー財団委員会の役割、年次寄付の話、さらに橋本会長からは7月13日行われた今年度地区財団セミナーの報告で、ロータリー財団委員会の意義、

どのような活動をしているかの報告が行われました。

◎米山財団委員会：佐々木委員長の企画の元、10月23日に担当委員会で米山記念奨学会さらには米山奨学生の程 佳萌さんから「中国の医学」ということでお話をいただきました。

寄付を伴うロータリー財団委員会さらに米山財団委員会ですが、米山財団委員会は今年度8名の方しか寄付をいただけていませんし、さらにロータリー財団に関しては年次・ポリオ合わせてまだ6名の方しか寄付をいただけていません。皆さんのご協力が必要だと思いますので、皆さんのご協力をお願いすべくまたPR等をしていきたいと思っています。

青少年奉仕委員会

正部家光彦委員長



◎インターアクト委員会について：先々週の例会で加藤範尚委員長から詳しい説明がありましたので、簡単にお話します。

工大二高からアクトの翼に今月末に参加する生徒がいます。来年3月の例会で台湾でのホームステイ等のような発表を楽しみに待ちたいと思います。また、今月25日のクリスマス例会は毎年たくさん参加していただいていると思って案内を出したところ、今回は校長を含め生徒の参加はなしという返事がありました。これまで担当で熱心に指導して下さっていた先生が体調を崩し、活発な活動がままならないという報告も受けていますので、副担当の先生へ、こちらからのイベント参加のお誘いや提案も含めて連絡を取って行きたいと思っています。

◎ローターアクト委員会：まだ新会員の入会はありません。渡部充委員長と相談して、まずはきっかけ作りということで9月7日に若手社員を集めて頂いて、わたしの家で茶道体験会を実施しました。さらには先週12月5日にもう1回若手（日興証券と安田生命）と支店長を含めて全部で8名参加いただきました。炉開きを体験してもらって、その後飲み会も開きました。日本文化に触れながら、また皆

さんとお話をしながら会員勧誘につなげられたらと考えています。

ただ課題としては、やはりローターアクトの核となる奉仕活動を探すことだと思っています。例えば子ども食堂であるとか、八戸市や青年会議所でボランティア活動がいろいろあると思いますが、そういうことでまずは参加できるものがないかを今、渡辺委員長と共に模索しているところです。さらにはロータリークラブ内の行事、例えばこれからある百人一首大会への参加の声かけをしていきたいと思っています。

もし皆さんの職場で奉仕活動に興味がある、あるいはお茶でもいいのですが、何か興味のある方がいましたら、渡辺委員長かわたしまで連絡をいただきたいと思っています。そこから幅を広げていければいいかと考えています。

ロータリーの友委員会 道尻誠助委員長



見て楽しい、読んで感動するロータリーの友委員会の時間がやってきました。きょうは前半はわたしが、後半は自然農法を研究されていて、畑の土まで食べて腹を壊してしまったという赤澤栄治さんの二人でお届けします。

1980年代はけっこうシャボン玉がたくさん飛んでバブってしまった年代のひじょうに変化のある年でした。ただ八戸ロータリークラブはどうだったか。前は青森・岩手・宮城が一緒の地区でしたが、ロータリー会員が増えたために青森と秋田が一緒になって63クラブ、2960名の地区ゾーンができました。ロータリーの友から見ると、八戸クラブはこういうことが言えます。輝いていた。団結力があつた。元気があつたということをロータリーの友から拾って、皆さんにご紹介したいと思っています。

1980年7月に福地義男さんが地区ガバナーになりました。紹介記事をご覧ください。また「みんなで生きるために」という寄稿もされています。ひじょうに内容のある文面です

ので、機会のある方はぜひ読んでいただければと思います。

天摩正太郎さんが地区の友委員会委員をされていて、「ロータリー雑感」というひじょうに内容のあることを書いておられます。一部をご紹介します。「省みて自分は人間としてもまたロータリアンとしても何らの進歩も前進もないことを心より赤面せざるを得ない。人間としての進歩がない代わりに頭髪がだいぶ後退した。笑われても良きロータリアンたるべく日夜努力している。」というひじょうにユーモアがあるけれども、中身のある文章を書いていますので見ていただければと思います。

第47代会長の笹垣正弘さんは当時は八戸青年会議所理事長をされていて、Love八戸運動について詳細に書いています。青年会議所の方々がどういう思いで始まったということに興味のある方はご覧になってください。

その後1984年に天摩正太郎さんが地区ガバナーになりました。ひじょうにユーモアのある方ですのでご覧になっていただければと思います。

正部家種康さんは鎌倉時代からの八戸藩にまつわることをずっと書いています。今となつてはお話を伺っておけばよかったなと思います。歴史に興味のある方は寝ないでご覧ください。

25周年記念が1985年に行われました。記念事業は太陽電池時計を設置しました。皆さん見たことはありますか。どこにあるかわかりますか。市役所前にあります。時計も正確です。



赤澤栄治委員



横組みP5 RI会長のステファニーA. アーチックさん。「心と頭で適応力を高める。ロータリーの行動計画に示されているように、適応するためにはこれまでの方法から一步踏み出して新しいことにチャレンジする必要があります。ここに適応力を示した2つのクラブの例をご紹介します。1つは心、もう1つはクリティカル・シンキングと戦略で対応したクラブです。

インドのチャンディーガル・ミットタウンロータリークラブは今年始め、心を大切に行動を起こしました。会員の参加を促し、会員基盤を強化するため、クラブ会長のニキン・カプールさんは退会したすべての会員に直接電話をかけ、元クラブ会員の同窓会に招待しました。会には呼びかけに応じた8人が出席するという素晴らしい結果となりました。これらの元会員は現会員と1つつながることができただけでなく、会員同士の仲間意識や帰属意識を再び感じることができました。その夜の終わりまでクラブは元会員の6人を再びロータリークラブファミリーに迎えることができましたのです。」当クラブも退会した人を呼んでいただければいいのかなと思って、これを読んでいました。

「人は誰でも自分は必要とされ、大切にされていると感じたいものです。そして帰属意識を求めています。このように感じてもらうためにはわたしたちが勇気をもってそれを伝える必要があるということです。」わたしも大切にされたり、必要と言ってもらいたくて待っていますので、皆さんよろしくお願ひします。

P22「受け継がれるバトン」

東京広尾ロータリークラブ 服部洋子さん

「大学受験という壁にぶつかったわたしは、夢や目標が見えなくなり、いつしか自分を見失ってしまいました。両親と進路の話をして自分の気持ちを素直に伝えられず、日々悩んでいました。そんな時、学校で短期青少年

交換プログラムの案内を目にし、わたしの人生にとって大きな転機になるかもしれないと思ったわたしは参加を決意、試験や面接を経てアメリカ行きの切符を手に入れました。1つ目は人生初の交通事故に遭ったことです。それはホストファミリーと一緒にステイしていた友だちとひまわりの畑に出かけた帰り道の高速道路で起きました。幸いにも車内全員にけがはありませんでしたが、スーザンが以前看護師として勤めていた病院に行くことに。こうした状況ではどうしても暗くなりがちですが、とあるホストファミリーの方はこう言いました。「そう、これはアメリカからの大きなお土産だ。」というのです。暗いできごともポジティブにとらえ、そしてみんなの不安をぬぐおうとするこの一言で、ホストファミリーも強さと優しさに触れました。」皆さんの何か困難にあったら“大きなお土産”というふうに言ってください。今日もわたしは委員長から大きなお土産をいただき、みんなの前に出て恥ずかしい思いをしています。

P37 「花壇 フィリピンでの竹植栽で環境保全を」東京中央ロータリークラブ

「9月6日～7日に当クラブでは各地区合同の国際奉仕事業としてフィリピン ルソン島のマヨン山麓で竹を100本植栽しました。当日は主将クラブの第3810地区のマニア・プレミアム・ロータリークラブと第3820地区デガスピン・セントラルロータリークラブとの呼びかけに応じた国内外12クラブと2つのインナーホイールクラブからおよそ60人が参加。雨季で雨の降りやすい中、汗を流しました。」

これを見てわたしはちょっと心配になりました。竹は管理しているときはいいのですが、放置するとどんどん山林の中に竹が侵食してたいへんなことになります。西日本はそれで今ひじょうに苦労しています。竹の花が咲くと枯れてなくなるというのを聞いたことがある方はいますか。わたしの庭にも竹やぶがあったのですが、わたしは中学生の時に花が咲いて、これで絶滅すると思って見ていたら数本残ります。数本残ったものが少しずつ増

えてきて。完全な絶滅はなかったです。竹を放置したものが竹藪、手入れしたものは竹林と呼び方を変えるそうです。孟宗竹は中国から九州に輸入され、そこから全国にどんどん広がっていきました。このタケノコを食べすぎるとたいへんなことになる。現実逃避する。「妄想だけ」

絶やす方法としていくつかあります。冬の間、地面から1mくらの高さで切る。そうすると竹が死んだということが分からないで、そのまま枯れていく。完全ではないそうです



今回はロータリー歴の長い人 第7弾 ということです。先週は道尻さん、その前は築館さんということで、ロータリーの思い出話にお付き合いください。

わたしが入会したのは2002年1月で、ほぼ23年間在籍させていただいています。ロータリーのアルバム、写真を引っ張って見ますと、一番最初に出てくるのが入会した年の地区協議会での写真です。それは青森市で行われたものです。地区協議会といっても本体の写真ではなく、その後に行われた八戸ナイトという懇親会の写真です。当時のお歴々の方が写っている中で、わたしが小さくなって写っている写真です。当時は地区大会、地区協議会など県全体で集まるようなときには必ず夜には八戸ナイトという懇親会が企画されました。皆さん、地区大会の懇親会もそこにそちらに行って騒ぐぞという感じだったように思います。

今でもそうでしょうが、人数によってはバスを仕立てて、ワイワイとバスの中で飲みながら目的地まで行く。当時は正部家種康さんがいろんなことをご存じの方で、道すがらバスガイドもたじたじするような中身の濃い話をお聞きしながら行ったという、バス遠足気分に参加したことを覚えています。

入会して間もなく、親睦委員会に配属されました。当時わたしと同じくらいに入会した

が、やってみてください。

P26 「継続は力 日比を紡ぐ支援は45年」

ここにバギオ基金が載っています。フィリピンに日本人が行って土木工事など工事をやっていた。ところが第二次大戦で終戦になったらバギオが戦争で一番被害を受けたところで、終戦後に日本人が一番迫害を受けた。それでそれをロータリークラブで支援しようということで「バギオ基金」が始まったそうです。

佐々木 泰 宏 会員

築館智大さん、故船田寿晴さん、故佐々木健展さんと一緒に親睦委員会に配属されました。当時は小泉忠男さんが会長でしたが、毎月何かやれという強い支持がありました。何かをやらなければいけないということで、本当に頭を悩ましていろいろやったのを覚えています。

例えば新井田川でハゼ釣り家族会。30人くらい参加したのではないかと思います。当時は太一の宮崎さんもメンバーでしたので、宮崎さんが天ぶら屋台を一式用意してもらって、釣った魚をその場で料理して天ぶらにするという、ひじょうにぜいたくなこともやりました。小泉農園でいちご狩りをやったり、夏の納涼会ではメロンパーティーと称してすべてメロン尽くしというぜいたくなこともしました。また、最終例会では当時、料理の達人と言われていた中華料理の陳健一さんを小泉さんが呼んできて、パークホテル(?)で陳さんがプロデュースした中華料理に舌鼓を打ったという、ひじょうにぜいたくな親睦委員会だったと思います。

それから1、2年してわたしが親睦委員長のときに思い出に残っているのは夏の納涼例会でパークホテルの庭続きのお部屋で夜店例会。子どもたちをたくさん呼んで金魚すくい、トントン、花火、綿あめなどわいわいがやがや納涼例会をやった記憶もあります。

そういう親睦関係ではクリスマス例会で世間で当時流行っていたものを取り入れてやるのが何回かありました。韓国メロドラマが流行ったときにはヨン様を会場にお呼びしています、ということでわたしがヨン様に扮してちょっとした寸劇をやったり、マツケンサンバが流行ったときにはN T Tの支社長が侍のちょんまげ、着物を着てマツケンそのものになって、7、8人が舞台上がってマツケンサンバを踊ったという記憶があります。

ロータリーバンドと称して、少々腕に覚えのある人間が5、6人集まって何曲か披露しました。これはその後、基隆からお見えになったときにも台湾の曲を何曲か一生懸命練習して台湾の方々にご披露したこともありました。比較的最近ではわたしが会長のときには、ちょうどラグビーワールドカップのときで、流行っていたハカをやろうじゃないかということで、わたし以下10人くらいの有志が集まって1か月くらい猛練習しました。それで猛練習の割には揃わなかったという。皆さんにどれくらい受けたかはわかりませんが、長老の方々にはたいへん好評だったと記憶しています。いろいろ知らないなりに、わからないなりにいろいろやらせてもらった気がします。

思い出は基隆クラブとの交流です。入会したての頃は基隆クラブの人が来たのをお迎えに上がったときに荷物を持って、あれやれ、これやれと先輩の方々にけっこうきき使われました。何でこんなに基隆の人たちをおもてなしするのかとちょっとむっとした記憶がありますが、それもその次に基隆に行ったときに即解決しました。行くと、着いた瞬間から空港ゲートをくぐるまで本当に下にも置かないおもてなし。こちらが恐縮するくらい。行かれた方は皆さんお分かりだと思います。そういうことで、なるほどこういうことだったんだと得心しました。それ以来、恐らく10回以上は参加しているかと思っています。

何周年かの記念に基隆の子どもたちを1週間程度自宅に預かるという企画がありましたので、わたしも基隆の女の子を2人ほど預か

りました。いろいろあちこち連れまわしたり、食事会をしたり、ひじょうに楽しかったわけです。その後も基隆に行くたびにそのときのことをすごく感謝していただいて、親御さんもその子どもさんたちも歓迎会にも顔を出して、その節はという感じでもてなしていただきました。つい最近もその女の子の一人が結婚して、子どもさんができたとわざわざ見送りの空港に子供を連れて来てくれて、ちょっと感激しました。

わたしが国際奉仕委員長の時、基隆の方々が八戸に来る前に仙台の作並温泉で一泊するというのを聞き付け、ではわれわれも作並に行こうか。姉妹クラブ委員会の夏堀礼二さんたちと温泉と一緒に泊まって、風呂にも一緒に入って背中を流し合ったのもすごくいい思い出になっています。

今年も基隆に行ってきましたが、さすがに向こうのメンバーもほとんど変わりました。ですから馴染みの人や日本語ができる人もまじりません。本当に向こうの組織も少し変わったみたいで新しい人がだいぶ増えていました。われわれの方も橋本会長以下、今回は若い人がかなり参加してくれましたし、奥様方もけっこう参加していただいてだいぶ打ち解けていたという印象があります。そういう新しい世代同士でぜひ続けていっていただければと思います。

最後にうちのクラブはいろんな大先輩がいっぱいいました。その中で印象に残っている方は故浅水逸郎さん。ガバナーを2回やった(?)という大御所です。ロータリーに厳しくルールをすごく気にする方でした。例会時間も途中退席するときに1時6分までいなさい。6割出席。あるいは^{にはちさんまる}2830地区という^{にはちさんまる}と、^{にせんはつびやくさんじゅう}2830地区はありません。2830地区と言いなさいと大きな声で注意されてフルフルした記憶があります。立派な方だったと思います。吉田昌平さん。あまり口数の多い方ではなかったのですが、ロータリーの役員会のときに何かもめごと、困りごとが発生したりすると、最後の方におもむろに胸ポケットから赤いロータリー細則を出して、困ったときは

これを見なさい。それで一件落着。ひじょうに貫禄十分、われわれもははあっという感じだった記憶があります。

そういったことで20数年ですが、わたしに

とってのロータリーの20数年、人との出会いもそうですが、色々な経験もさせてもらって、本当に入って良かったと改めてつくづく思っています。

出席報告						出席委員会																	
第3336回例会（12月11日）			第3334回例会（11月27日）																				
出席率		64.1%		出席率		63.5%		修正出席率		67.2%													
総会員数		65名		出席数		37名		総会員数		65名		メイクアップした人数		3名									
出席義務会員		64名		出席免除会員		1名		欠席数		23名		出席義務会員		63名		出席免除会員		2名		欠席数		23名	